

8月に入り厳しい暑さが続いている。学校の夏休みも3週間になる。しかし、少子高齢化の流れの中で、私が住んでいる地域からは、子どもが元気に遊んでいる風景がめつ

施し、隣同士で答の「交換マル付け」をさせた。しかし、誤字を「×」にできない子が少なくない。

友達に厳しく接する経験に

乏しく、「善意に解釈してあげることに何のわだかまりを感じていない。友達が入試本番で失点をしたうどいう恐れより、嫌な気持ちになることを避けている。

休み時間に「何かゴメンね」と何度も友達に言っている男子を見掛けた。「何をそんなに謝っているの?」と尋ねると、「嫌な気持ちになりたくないんです」と軽く笑った。どうやら相手ではなく、自分が嫌な気持ちになりたくないということらしい。

夏期講習では一日無料体験」を受講する子どもが来る。中学2年のクラスに参加した先日も中学3年の授業で実ある女子は、初めての教室の

私見劇見

Thursday

嫌な気持ちになりたくない

雰囲気に緊張気味だった。

同じ中学の塾生に「君とは友達か?」と聞いてみた。す

ると、顔をちらりと見てから「え、いやあ……」と煮え切らない態度。「はい、そうで

煙山 篤

志学塾塾長



覚悟と勇気

はたやま・あつしま
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

「違つよ、なぜ正解が出ないのだろう? では次は君!」と、日焼けで真っ黒になった野球部の長身男子を指名した。「え……」と、もじもじしてから「えっと、クサムシり!」。教室中が大爆笑!

3 携帯・スマホ所持4割

先頃、「八戸市内小55%」
は、相手の気持ちを考えるこ

れれば所持していない子を見つけることの方が難しい。安

全・安心のために便利な道具が、友達との人間関係を築くための手段に変わっていく。

われわれ親の世代が子どもが、相手の気持ちを考えるこ

とで覚悟が決まり、勇気が湧いてくる経験を積んで、成長

する」と言えば、相手もうれしいだろう」と提案。「さて、この○○には何が入る?」と質

問した。

サッカー部の男子が「ヨイ見知り」と張り切って答えた。「2文字だよ」と次の解

答を促す。テニス部の女子が自信なさげに「人見知り?」。クラスは一瞬静まってから、笑いに包まれた。

授業の最後に「親友とは傷つけ合って許し合うもの。人が傷つくのは、何を言われたかでなく、誰に言われたかだ」と呼び掛けた。子どもに

おしゃべりの延長のような

内容が多かったし、悪口や陰口もあった。仲良しもいれば、仲間外れもあった。意地悪され、「絶交!」を宣言。独りぼっちを味わったり、次に仲直りしたり……。

どんな危険な相手であっても、「ロック」というスマートな手段として、子どもに持たせれば便利な道具だ。

しかし、子どもは小学生の時に親に渡されていたとして「友達も持っているからほし

い」と言い出す。高校生にな

れば所持していない子を見つけることの方が難しい。安

全・安心のために便利な道具

が、友達との人間関係を築くための手段に変わっていく。

われわれ親の世代が子ども

が、相手の気持ちを考えるこ

とで覚悟が決まり、勇気が湧いてくる経験を積んで、成長

していく」と強調した。

(工藤洋平)

クマ出没異臭で撃退

むつ市効果期待し試験開始

むつ市は10日、高い頻度でクマやサルの食害を受けている市内の畠など3カ所で、初の忌避効果試験に着手した。オオカミのふんを溶かした強烈な異臭を放つ液体入りの容器を周囲に設置。約1カ月間にわたって出没状況を確認し、その後対応を検討する。

(澤田淳一)

クマの出没目撃件数が今月

9日までに172件に上

る。既に昨年1年間の14

件を超過した。担当者は3日

前

に1度のペースで見回り、

蒸発した分を補充する。

害も出しており、住民の悩みの種となっている。

試験では、クマなどが畠に寄り付かないような対策をひとと、平川市の業者から無償提供された液体を活用。クマ対策は城ヶ沢松原の大畠町二枚橋の畠で実施する。

このうち、ここ数年は毎

年被害を受けているとい

う。オオカミのふんを溶かした強烈な異臭を放つ液体入りの容器を周囲に設置。約1カ月間にわたって出没状況を確認し、その後対応を検討する。

(澤田淳一)

市内では今年4月以来、

9日までに172件に上

る。

クマの出没目撃件数が今月

9日までに14

件を超過した。担当者は3日

前

に1度のペースで見回り、

蒸発した分を補充する。

テープカットして久慈消防署野田分署の完成を祝う関係者=10日、野田村



防災拠点の完成祝う

久慈消防署野田分署が移転

旧分署は村役場の近くにあり、津波で1階の天井部分まで浸水し、業務に支障が生じた。

修繕して使用を継続してきたが、老朽化や手狭になっている現状などを踏ま

害を受けた野田村で、移転、新築された久慈消防署野田分署の落成式が10日、現地であった。関係者約30人が出席し、消防業務や防災拠点となる施設の完成を祝った。

新分署は旧分署から西に約500m離れた浸水区域外にあり、敷地面積3038平方㍍、延べ床面積は622平方㍍。鉄骨平屋建てで、事務室や仮眠室、消防団本部控室、水門遠隔操作室、車両4台が収納できる車庫などを配置した。

小田祐士村長は落成式で

「財源の調整などがあり、

事業着手から2年7ヶ月の

長い期間がかかったが、防

災拠点となるものと自負し

ている」と強調した。

る。

がん研究センター中央病院の大江裕一郎副院長は